



平成24年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月13日

上場会社名 株式会社東急レクリエーション
 コード番号 9631 URL <http://www.tokyu-rec.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月14日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 佐藤 仁
 (氏名) 堀江 真二郎
 TEL 03-3462-8870
 配当支払開始予定日 平成24年9月20日

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年12月期第2四半期の連結業績(平成24年1月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|--------------|--------|-------|------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 24年12月期第2四半期 | 13,901 | 8.1 | 166 | — | 127 | — | 121 | — |
| 23年12月期第2四半期 | 12,858 | △16.0 | △310 | — | △343 | — | △2,307 | — |

(注) 包括利益 24年12月期第2四半期 157百万円 (—%) 23年12月期第2四半期 △2,421百万円 (—%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|--------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 24年12月期第2四半期 | 4.14 | — |
| 23年12月期第2四半期 | △78.55 | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|--------------|--------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 24年12月期第2四半期 | 44,042 | 19,557 | 44.4 | 665.98 |
| 23年12月期 | 45,100 | 19,400 | 43.0 | 660.61 |

(参考) 自己資本 24年12月期第2四半期 19,557百万円 23年12月期 19,400百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 23年12月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 24年12月期 | — | 3.00 | — | — | — |
| 24年12月期(予想) | — | — | — | 3.00 | 6.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年12月期の連結業績予想(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|--------|------|------|---|------|---|-------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 31,942 | 18.0 | 788 | — | 602 | — | 309 | — | 10.52 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|-----------|--------------|-----------|--------------|
| 24年12月期2Q | 31,937,474 株 | 23年12月期 | 31,937,474 株 |
| 24年12月期2Q | 2,571,357 株 | 23年12月期 | 2,569,426 株 |
| 24年12月期2Q | 29,366,968 株 | 23年12月期2Q | 29,370,983 株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、【添付資料】3ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する定性的情報 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する定性的情報 | 3 |
| (3) 連結業績予想に関する定性的情報 | 3 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | 4 |
| (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 4 |
| (2) 追加情報 | 4 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 5 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 7 |
| 四半期連結損益計算書 | 7 |
| 四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| (3) 継続企業の前提に関する注記 | 9 |
| (4) セグメント情報等 | 9 |
| (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 | 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興関連需要等を背景として緩やかながらも持ち直しているものの、欧州債務危機等による海外経済の減速や長期的な円高傾向などの影響から、依然として先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、前期において不採算事業所の閉鎖等のリスクチャリングを行い、収益構造の改善に全社をあげて取り組みますとともに、映像事業、スポーツ・レジャー事業、不動産事業の3事業ともに、引き続き、積極的な営業活動を行ってまいりました。

この結果、売上高は13,901百万円(前年同期比8.1%増)、営業利益は166百万円(前年同期は310百万円の営業損失)、経常利益は127百万円(前年同期は343百万円の経常損失)となり、四半期純利益は121百万円(前年同期は2,307百万円の四半期純損失)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 映像事業

当第2四半期連結累計期間における映画興行界は、邦画にヒット作品が生まれたものの、その数は乏しく、業界全体としては、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のなか、映画興行事業におきましては、前期より推進している映写設備のフルデジタル化に伴う上映環境の整備を順次進めるとともに、空調管理システム、LED照明の導入などによる効率的な運営と徹底したコスト管理に努めてまいりました。また、昨年11月に開業いたしました「109シネマズ湘南」(神奈川県藤沢市)が好稼働し、収益に寄与いたしました。

当第2四半期連結累計期間の上映作品といたしまして、邦画では「ALWAYS 三丁目の夕日'64」「映画ドラえもん のび太と奇跡の島 ～アニマル アドベンチャー～」 「テルマエ・ロマエ」、洋画では丸の内ルーブル系で全国公開いたしました「シャーロック・ホームズ シャドウ ゲーム」をはじめ、「ミッション：インポッシブル/ゴースト・プロトコル(IMAX®版)」「ダーク・シャドウ(IMAX®版)」「メン・イン・ブラック3(IMAX®3D版)」などを上映し、好評を博しました。

この結果、売上高は6,415百万円(前年同期比15.5%増)となりましたが、当事業を取り巻く環境は依然として厳しく、営業損失は70百万円(前年同期は399百万円の営業損失)となりました。

② スポーツ・レジャー事業

ボウリング、フットサルの両事業におきましては、各事業所において快適に競技を行える施設の運営に努めるとともに、多彩なニーズに対応した各種大会を行い、地域の特性に合わせたサービスの提供に努めてまいりました。また、スクールや会員交流を目的としたイベント等も充実させ、顧客満足度の一層の向上をはかってまいりました。

また、コンビニエンス事業におきましては、3月に開業した「ファミリーマート赤羽平和通り店」(北区志茂)が順調に推移するとともに、都心に展開する各店舗においても季節型商材の積極的な販促並びに効率的な店舗運営に努め、収益の拡大をはかってまいりました。

さらに飲食事業におきましては、「食彩健美 野の葡萄」「モスバーガー」の各店舗ともに充実したメニューを揃えるとともに、施設のクレンリネスの徹底などを行い、清潔で快適な店舗運営を推進してまいりました。

この結果、当事業の売上高は2,533百万円(前年同期比1.8%増)となり、営業利益は55百万円(前年同期比105.7%増)となりました。

③ 不動産事業

不動産事業におきましては、「駒込駅前ビル」(豊島区駒込)、「池袋とうきゅうビル」(豊島区東池袋)などの当社直営ビル、「自由が丘NKビル」(目黒区自由が丘)、「仙台TRビル」(仙台市青葉区)を始めとするマスターリースビルの双方において、テナント企業からの賃料見直しや近隣ビル間でのテナント誘致競争の激化により賃料水準も下落傾向にあり、引き続き、大変厳しい事業環境となりましたが、管理運営コストの削減等により、効率的なビル運営に努め、安定収益の確保に努めてまいりました。

また、ホテル事業につきましては、1月にリニューアルオープンいたしました宿泊主体型の「ホテル東急ビズフォート広島」(広島市中区)並びに「熊本東急イン」(熊本市中央区)において、インターネットを利用した宣伝活動や満足度の高い宿泊パック等を提供するなど、顧客の獲得に努めてまいりました。

この結果、当事業の売上高は4,170百万円(前年同期比2.1%減)となり、営業利益は613百万円(前年同期比14.9%増)となりました。

④ その他

ビル管理事業におきましては、オフィスビルを中心にビルメンテナンス・安全管理における高いニーズに応えるとともに、クオリティーの高い技術力とサービスの提供に努めてまいりました。

アミューズメント事業におきましては、都心に展開しているゲームセンター「G-R E C' S」での快適な店舗運営に努めてまいりました。

また、流行発信ショップ「r a n K i n g r a n Q u e e n (ランキンランキン)」は、ブランドの価値向上をはかりながら、話題の商品・情報を提供していくとともに、安定した収益基盤の構築に努めてまいりました。

この結果、これら事業の売上高はランキン事業が寄与し、781百万円(前年同期比39.9%増)となり、営業利益は38百万円(前年同期比114.2%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産、負債、純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,058百万円減少し、44,042百万円となりました。これは主にその他(未収入金)が601百万円、有形固定資産が560百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ1,214百万円減少し、24,485百万円となりました。これは主に短期借入金が増加し、その他(未払金)が895百万円、長期借入金が増加し、受入保証金が増加したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ156百万円増加し、19,557百万円となりました。これは主に利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高が当初の業績予想に比べ若干減少いたしましたものの、営業利益、経常利益、四半期純利益においてはそれぞれ上回ることができました。しかしながら、通期の業績予想につきましては、引き続き海外経済の下振れなどを背景とした企業収益の悪化、個人消費の低迷等が懸念され、景気の先行きが不透明なことから、平成24年2月13日に公表いたしました業績予想を据え置くことといたします。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

一部の連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第2四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(2) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年12月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|-------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 712,609 | 773,380 |
| 売掛金 | 799,267 | 885,312 |
| 商品 | 195,061 | 185,557 |
| 貯蔵品 | 50,003 | 58,976 |
| 繰延税金資産 | 311,044 | 235,949 |
| その他 | 3,898,897 | 3,319,267 |
| 貸倒引当金 | △3,887 | △845 |
| 流動資産合計 | 5,962,995 | 5,457,598 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 11,011,870 | 10,616,712 |
| 土地 | 10,677,011 | 10,677,011 |
| その他(純額) | 2,081,989 | 1,916,929 |
| 有形固定資産合計 | 23,770,871 | 23,210,653 |
| 無形固定資産 | | |
| 投資その他の資産 | 1,057,599 | 1,060,116 |
| 投資有価証券 | 2,288,561 | 2,341,313 |
| 差入保証金 | 9,536,371 | 9,460,653 |
| 繰延税金資産 | 849,205 | 850,038 |
| その他 | 1,636,275 | 1,662,678 |
| 貸倒引当金 | △1,135 | △780 |
| 投資その他の資産合計 | 14,309,277 | 14,313,904 |
| 固定資産合計 | 39,137,748 | 38,584,673 |
| 資産合計 | 45,100,744 | 44,042,272 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成23年12月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 1,533,593 | 1,554,345 |
| 短期借入金 | 3,500,000 | 3,700,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 623,301 | 620,501 |
| 未払法人税等 | 14,754 | 41,866 |
| 引当金 | 27,800 | 27,764 |
| その他 | 3,020,237 | 2,171,251 |
| 流動負債合計 | 8,719,687 | 8,115,729 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 2,296,171 | 1,985,894 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 2,829,342 | 2,829,342 |
| 退職給付引当金 | 279,973 | 301,149 |
| 資産除去債務 | 1,362,924 | 1,374,223 |
| 受入保証金 | 7,237,897 | 7,002,738 |
| その他 | 2,973,892 | 2,876,064 |
| 固定負債合計 | 16,980,201 | 16,369,412 |
| 負債合計 | 25,699,889 | 24,485,142 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 7,028,813 | 7,028,813 |
| 資本剰余金 | 7,061,184 | 7,061,184 |
| 利益剰余金 | 2,088,180 | 2,209,733 |
| 自己株式 | △1,379,237 | △1,380,129 |
| 株主資本合計 | 14,798,941 | 14,919,601 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △254,008 | △218,393 |
| 土地再評価差額金 | 4,855,921 | 4,855,921 |
| その他の包括利益累計額合計 | 4,601,913 | 4,637,528 |
| 純資産合計 | 19,400,854 | 19,557,130 |
| 負債純資産合計 | 45,100,744 | 44,042,272 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日) |
|-------------------------------------|---|---|
| 売上高 | 12,858,275 | 13,901,442 |
| 売上原価 | 12,671,671 | 13,265,089 |
| 売上総利益 | 186,604 | 636,352 |
| 販売費及び一般管理費 | 497,303 | 469,835 |
| 営業利益又は営業損失(△) | △310,699 | 166,517 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 9,175 | 13,422 |
| 受取配当金 | 22,987 | 21,581 |
| 補助金収入 | — | 23,329 |
| 償却債権取立益 | — | 9,347 |
| その他 | 5,376 | 10,179 |
| 営業外収益合計 | 37,540 | 77,860 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 48,458 | 104,288 |
| 持分法による投資損失 | 11,664 | 9,539 |
| その他 | 10,207 | 3,285 |
| 営業外費用合計 | 70,330 | 117,113 |
| 経常利益又は経常損失(△) | △343,489 | 127,264 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | — | 69,999 |
| 退店補償金収入 | — | 54,518 |
| その他 | — | 1,180 |
| 特別利益合計 | — | 125,698 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | 3,677 | 1,123 |
| 固定資産除却損 | 5,778 | 2,595 |
| 減損損失 | 708,232 | 4,937 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 520,911 | — |
| 店舗閉鎖損失 | 185,211 | 9,750 |
| 支払補償金 | 25,000 | 41,000 |
| 災害による損失 | 720,138 | — |
| その他 | 4,424 | — |
| 特別損失合計 | 2,173,373 | 59,407 |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) | △2,516,863 | 193,554 |
| 法人税等 | △209,708 | 72,002 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△) | △2,307,155 | 121,552 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △2,307,155 | 121,552 |

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日) |
|---|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△) | △2,307,155 | 121,552 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △114,239 | 35,614 |
| その他の包括利益合計 | △114,239 | 35,614 |
| 四半期包括利益 | △2,421,394 | 157,167 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △2,421,394 | 157,167 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | — | — |

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年1月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-----------------------|-----------|-----------------|-----------|------------|--------------|------------|--------------|--------------------------------|
| | 映像事業 | スポーツ・ レジャー事業 | 不動産事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 5,553,210 | 2,488,199 | 4,258,158 | 12,299,568 | 558,707 | 12,858,275 | — | 12,858,275 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | — | — | 29,199 | 29,199 | 460,910 | 490,109 | △490,109 | — |
| 計 | 5,553,210 | 2,488,199 | 4,287,357 | 12,328,767 | 1,019,617 | 13,348,385 | △490,109 | 12,858,275 |
| セグメント利益 又は損失(△) | △399,408 | 26,865 | 533,994 | 161,451 | 17,978 | 179,430 | △490,129 | △310,699 |

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業、アミューズメント事業、ランキン事業を含んでおります。ランキン事業は、平成23年5月1日に東京急行電鉄㈱より事業譲受した新規事業セグメントであります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△490,129千円には、セグメント間取引消去△21千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△490,108千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門に係る費用であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「スポーツ・レジャー事業」及び「不動産事業」セグメントにおいて、稼働率の低下等により、当初想定しておりました収益が見込めなくなったため、減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において、「スポーツ・レジャー事業」1,927千円、「不動産事業」706,305千円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注)1 | 合計 | 調整額 (注)2 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3 |
|-----------------------|-----------|-----------------|-----------|------------|-------------|------------|-------------|-------------------------------|
| | 映像事業 | スポーツ・ レジャー事業 | 不動産事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 6,415,749 | 2,533,158 | 4,170,739 | 13,119,647 | 781,794 | 13,901,442 | — | 13,901,442 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | — | — | 28,335 | 28,335 | 450,401 | 478,737 | △478,737 | — |
| 計 | 6,415,749 | 2,533,158 | 4,199,075 | 13,147,983 | 1,232,195 | 14,380,179 | △478,737 | 13,901,442 |
| セグメント利益 又は損失(△) | △70,742 | 55,254 | 613,618 | 598,130 | 38,507 | 636,638 | △470,120 | 166,517 |

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業、アミューズメント事業、ランキン事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△470,120千円には、セグメント間取引消去△165千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△469,955千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。